



議会だより

年頭のごあいさつ2ページ
令和元年第4回定例会
常任委員会報告.....3~4ページ
地区懇談会より5ページ
議会活動報告6ページ

一般質問7~8ページ
議会モニター8ページ
議員紹介9ページ
この村でがんばってます10ページ

~今年の無病息災を願って~



年頭のごあいさつ

議長 下岡 幸文



新年明けましておめでとうございます。

皆様には、清々しい新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年中は、皆様のご理解・ご支援により議会活動・議員活動に精励することが出来ましたことを、心からお礼申し上げます。

令和の時代に入り、国の内外共に大きな変革の時期に遭遇しています。喬木村でも高速交通網・人口減少時代の到来を受け、村勢の

発展に向けて議会にも議員各位にも自己決定・自己責任が求められるなど、かつて経験したことのない新たな環境に日々直面し、まさに、議会の真価が問われている時代といっても過言ではないと思っております。

若人にも十分魅力ある、活力溢れた喬木村を実現することが何よりも肝要であり、そのためには定住・移住推進、防災・減災対策などの課題を重点的に検討していかねばなりません。一度村外に出られた皆さんや移住を希望される皆さんが喬木村に住み生活するためには、働き口や農地の確保、住宅地の用

意など多くの課題があります。また、昨年の台風19号や昨今の異常気象による被災、将来必ず起こる東海・東南海地震などを想定し、常に対応を検討していかなければなりません。この他の課題についても議員全員で改善策を出し合い前進して行きたいと思っております。

私たち議員の任期はあと1年半です。課題を先送りせず、常に全力で取り組む覚悟です。皆様には議会に対して変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。心からお願い申し上げます。とともにご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。いさつといたします。

議決結果

今定例会より、各議員の賛否を明確にするために起立採決を採用した。

◎は全会一致、○は賛成多数、△は継続審査、×は否決

件名	審議結果	件名	審議結果
議案第45号 ※本会議即決 職員の分限に関する条例及び一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について。 改正地方公務員法の規定内容に合わせる。	◎	議案第50号 付託：総務産業建設常任委員会 地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定。既定条例における会計年度任用職員の規定の整備。	◎
議案第46号 ※本会議即決 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について。 人事院勧告を踏まえ一般職の俸給月額・手当の改定。	◎	議案第51号 付託：総務産業建設常任委員会 喬木村水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について。 上位法(水道法)の改正に伴う更新手数料の追記。	◎
議案第47号 ※本会議即決 特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について。 一般職職員の給与改定に伴う特別職の特別給改定。	◎	議案第52号 付託：予算決算常任委員会 令和元年度 喬木村一般会計補正予算(第4号)	◎
議案第48号 ※本会議即決 議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について。 特別職の特別給改定に準じ議会議員の特別給改定。	◎	議案第53号 付託：予算決算常任委員会 令和元年度 喬木村国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	◎
議案第49号 付託：総務産業建設常任委員会 喬木村会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定について。 会計年度任用職員の制度の明確化と給付の規定。	◎	議案第54号 付託：予算決算常任委員会 令和元年度 喬木村介護保険特別会計補正予算(第3号)	◎
		議案第55号 付託：予算決算常任委員会 令和元年度 喬木村水道事業会計補正予算(第2号)	◎
		議案第56号 付託：予算決算常任委員会 令和元年度 喬木村下水道事業会計補正予算(第2号)	◎

令和元年 第4回定例会

令和元年第4回定例会は、12月4日に開会し、条例の制定、条例の一部改正、令和元年度補正予算など全12議案を審議し12月18日に閉会した。

総務産業建設常任委員会

委員長 下 平 貢

本定例会で委員会に付託されました案件は、地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う会計年度任用職員制度の創設に関連した議案2件、水道法の改正による条例改正が1件です。主な質疑の一部を掲載します。

Q 運用にあたり、給与の減額などの影響が発生することはないのか。賞与を支払うために月給が下がることはないのか。

A 基本的には、同じ額をとということになるが、現行でも期末手当相当額の支払がなされており、現行が3.0ヶ月相当額に対し、国の基準が2.6ヶ月となるので、差額の0.4ヶ月相当額が月給に割り当てられることになるので、むしろ月給が上がるのが想定される。

Q 保育士の確保は問題ないのか。

A 保育士不足は地域全体の課題。近隣市町村との均衡をはかりながら対応していく。担任を持つようなポジションはフルタイム任用とする見解だが、本村の場合、今のところ一般職において充足している。今後不足が生じる事態になれば対応が必要。

会計年度任用職員制度とは

令和2年4月より施行。現行の嘱託職員、臨時職員について会計年度任用職員と名称を統一し、適正な任用・勤務条件を確保する為に定められた制度。



社会文教委員会報告

委員長 中 森 高 茂

第4回定例会において社会文教委員会へ付託された議案はなく、閉会中の継続審査を審議し委員会を閉じ、保育園視察に関する報告会及び意見交換会を行いました。

11月21日に、立川市のふじ幼稚園及びふじ赤とんぼ保育園の視察研修に有志議員で行ってまいりました。中原への新保育園の建設が進む中で、議会議員一人一人が多くの知識を習得するための委員会を開催しました。社会文教委員会では特に保育・教育の在り方を教育委員会・保育園保育士・関係各位の皆様と共に今後も学習し提案して参ります。また、将来の喬木村を担う宝物でもある園児の保育の在り方についても意見交換を行いました。

委員会の傍聴には、各区会の区長様方にお越しいただきありがとうございました。今後多くの皆様のご意見や要望をお寄せいただき参考にしていきたいと思います。

新保育園に求められている最大の課題は「安心安全」です。園児が元気よく駆け回り、万一の災害震災等にも命を守る環境作りが第一です。



予算決算常任委員会

委員長 佐藤文彦

12月11日、19時より予算決算常任委員会を開催し、令和元年度各会計補正予算の審議を行った。主な内容と質疑は下記の通り。

令和元年度 一般会計補正予算

- ・歳入歳出予算にそれぞれ、32,147千円を追加
(主な歳出内容)

人件費：人事院勧告による議会議員、常勤特別職及び職員
の報酬・給料・手当等の計上 2,956千円
総務費：台風19号災害義援金 1,000千円
民生費：福祉医療費の件数増による不足見込み分 5,700千円
農林水産業費：土地改良適正化事業による水路改修2,920千円
(土地改良施設維持管理適正化交付金2,610千円)
農林水産業費：里山整備事業を活用した危険木伐採6,000千円
(里山整備補助金3,000千円)

令和元年度 国民健康保険特別会計補正予算

- ・歳入歳出予算、563,371千円に増減なし。
(主な歳出内容)

総務費：国保連システム改修費等 35千円
予備費： △35千円

令和元年度 介護保険特別会計補正予算

- ・歳入歳出予算にそれぞれ、38千円を追加
(主な歳出内容)

人件費：人事院勧告による職員の給与費等を計上 83千円
予備費： △45千円

令和元年度 水道事業会計補正予算

(主な歳出内容)

建設改良費：堰下地区村道改良に合わせた上水道配水管
埋設工事 80,000千円

令和元年度 下水道事業会計補正予算

(主な歳出内容)

建設改良費：堰下地区の村道改良に合わせた下水道管理
設工事 31,500千円
：富田処理場の機能強化工事 31,000千円

主な質疑の内容

Q 里山整備関連事業の危険木伐採の予算は今年度の分か？

A 毎年度、令和4年度までの継続事業で、今回の補正は今年度実施分となる。

Q 神奈川県でハードディスクの流失問題が発生している。村の管理体制は？

A 過去3年間について調査を確認した。今後は総務省より廃棄には職員が立ち合うよう通知があった為、検討し対応していく。

Q 感染症(風しん)予防事業の進捗状況は？少ないのでは？

A クーポン券を300名ほどに発送し83名(26%)の方が受診した。当初で110名分を盛っている。今後も啓発し周知していく。

堰下ガイドウェイヤード付帯工事 村道道路改良設計が示される 村道202号線、502号線、587号線



車道6m、両側に2.5mの歩道、全幅で12mの道路改良(竜東一貫道路の阿島町、北地籍と同程度)

202号線、502号線について316mの改良工事。



県道251号線



587号線156m(歩道取り付けは片側のみ)

県道右折レーンのための改良240m

大型施設アリーナ整備に向けた検討会も大詰

全員協議会

南信州広域連合より


4回の検討委員会を経て、2月の広域連合議会にて方向が決まる見込み

出されている意見として

- ・プロスポーツが呼べる施設
- ・5000人規模の収容可能な施設
- ・立地としてはリニア駅近く

本当に必要な施設か？

民営でないと厳しい。そうなれば企業募集が必要。

今後、村との関わり方に注視 

地区懇談会より

令和元年度の議会報告会、地区懇談会が10月7日から、11月12日まで8区の会場にて開催され、全体で207名のご出席を頂きました。テーマは①議員定数について②議員報酬について③10年後を見据えた地域づくりについて行いました。

◇議員定数について

出された主なご意見は

- ・合併問題の時に6名減らした。これ以上定数を下げることは、議会運営の面からも、住民の意見を聞く機能としても難しいと考える。近隣市町村と比較しても、現状維持が良いのではと思う。
- ・定数12名だが、10名でいいと思う。住民の意見を吸い上げるのは、区長や自治会長（地区長）がしてくれる。議員はそこまでやっていない。
- ・村全体を見るにはある程度の人数は必要である。専門性も必要。増やしても候補者が出るか疑問。



地区懇談会全体会の様子

議会として皆様の意見を集約し、12名を選択しました。



地区懇談会グループ討議の様子

◇議員報酬について

出された主なご意見は

- ・報酬は安いと思う。この額では若い人でやりたいという人がでてこない。
- ・報酬だけを見ても、議員に魅力がないという人もいる。
- ・具体的な数字が出てきたのでわかったが、報酬アップしても良い。
- ・議員のスタンスで、兼業・片手間でするのであれば今の報酬が良い。
- ・区や自治会は奉仕の精神。議員は立候補して出ているため、その点をわきまえることが重要。次の選挙を見据えてという事なら、報酬で釣るより議員の仕事にアピールするべき。

皆様のご意見をもとに報酬審議会の開催を提言しました。

◇10年後を見据えた地域づくり

出された主なご意見は

- ・高齢化になりすぎて、いろいろな事業や活動が衰退してきている。
- ・高齢化時代に入り車に乗れない人が多くなっている。山間地の足をどう考えていくのか。病院や買い物弱者が増えている。
- ・統合保育園ができ、10年後に向け様々な整備も行われると思うが、やはり道路網の整備が課題。
- ・伝統芸能の祭り、消防団などに人口減少で役員のなり手不足になってきて将来不安である。

この他、多くのご意見を頂くことが出来ました。議会として、調査・研究を重ね、村政運営につなげて参ります。ご協力ありがとうございました。

今回の報告会はワールドカフェ方式を採用。これにより出席者全員からご意見を頂くことができました。

議会活動報告

国への要望活動

11月6日・7日の二日間、当議会は、村と合同で、省庁・国会議員を訪問し、以下の要望活動を行った。

一日目

国土交通省赤羽大臣宛てに「三遠南信自動車道の建設促進及び地方道の更なる整備拡充・強化を求める要望書」の提出。

財務省麻生大臣宛てに「三遠南信自動車道の建設促進及び道路整備予算の拡充並びに道路整備事業に係る財源確保を求める要望書」の提出。



宮下内閣府副大臣への要望活動



農水省職員を講師に迎えて勉強会

二日目

農林水産省生産局より講師をお迎えし、「スマート農業導入」に関する勉強会を行った。イチゴ栽培を例に四季成り性品種の夏秋どり栽培技術他の講義を聴き、その後意見交換を行った。農水省とは、はじめての懇談であり、ここで得た成果は、今後に繋げていきたい。

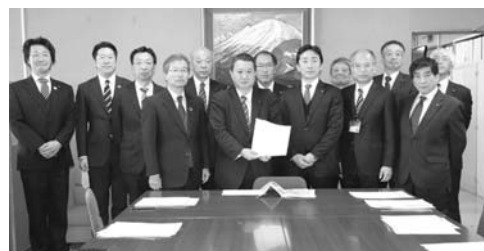
最後に、山本有二衆院議員、宮本周司経済産業省大臣政務官を表敬し、日程を終えた。

県への要望活動

喬木村と喬木村議会は、12月16日県議会清沢県議会議長及び県長谷川建設部長宛てに提言活動を行った。内容は以下の通り。

県議会・県

1. リニア中央新幹線事業に関連し、阿島橋の新規架橋の早期着工
1. 小川から下氏乗間のバイパス道路の整備促進
1. 小川渡橋を早期に架け替えること
1. 飯田上久堅・喬木富田インターチェンジから、富田バイパスの間の早期道路改良道路整備、橋の架け替えなど長期にわたる要望が必要であり、今後も続けていきたい。



県建設部長への提言活動

村長提言に対する回答

UIターン推進について

需要が高まっている宅地造成を実施していく。北の村営住宅でリニア関連により1棟除却。代替えとして1棟の建設を計画。宅地開発の促進を目的に、下段地域の地区内道路の新設改良について今年度より地元の皆さんと検討を始めている。

高齢者の安全運転対策

高齢者の悲惨な事故が危惧されるが、当村の実態から、免許返納だけ強いることは現実的に厳しい。国、県において対策（新しい免許制度の創設・安全装置装着車の購入等への補助金）が検討されており、それらの状況を考慮して、当村の支援施策を検討していく。

村民バスの運営

令和2年度より大島線の車両の小型化。中段地域の運行について、小川上平地区と富田地区にて実証運行を行う。令和2年度6月から半年間。運行実績にて検討する。

議会視察受け入れ

R1.7.18	埼玉県伊奈町議会
R1.7.30	群馬県南牧村議会
R1.10.3	岡山県奈義町議会
R1.10.11	長野県小布施町議会
R1.10.16	神奈川県山北町議会
R1.10.24	大阪府忠岡町議会有志議員団
R1.11.12	宮崎県西米良村議会
R1.11.26	石川県中能登町議会



台風19号が伊那谷を通過した時 喬木村の堤防は安全であるか

東原 靖雄 議員



Q 天竜川が越水、小川川が氾濫すれば伊久間団地は3mの浸水になる。大規模災害のハザードマップの計画は。

A 各戸に配布した防災マップは100年に1回の確率の浸水想定区域が表示されて、防災研究会で周知されている。1000年に1回の確率では48時間を想定して、大規模な洪水・浸水が想定された場合は中央社会体育館・第一小学校への避難を想定している。

■ 介護施設・グループホームの方々の避難道、避難場所はどこになるか。



子どもたちの村への関心を 高めるには

後藤 澄壽 議員



Q 中学校の青風祭で、1学年より喬木村の福祉について提案があった。これについて村の考えは。

A 大人が考えると難しいということになるが、子どもたちの真摯な思い、未来に対してこうしてほしいという思いは、何らかの形で思いを遂げさせてあげたい。こんな村づくりができたらいいね、という思いを達成できるような環境づくりをしていけるといいなと思っっている。

■ 「会計年度任用職員制度」導入にあたって。



農業振興施策について ～今後の土地利用構想は～

下平 貢 議員



Q 村の農地再生を鑑みると、伊久間原の再生が一つのキーポイントと考えるがどの様に考えるか。

A 広大な伊久間原において、農水省で示されているスマート農業の展開といった夢を描く可能性もある。現状では、地権者や土地改良区の皆さんの土地に対する思いが強いと思うので、今後この地域はこうしていくんだという構想をまとめ上げるのが出来れば、喬木村農業の新しい展開に期待がもてる。

■ 災害時の井戸の使用協定と、電力確保のための蓄電池、発電機の整備は。



公用車の管理は適切か 安全運転管理は

櫻井 登 議員



Q 公用車の使用及び管理は適切に行われているか。また、安全運転管理は徹底しているか。

A 車両管理規程に基づき「車両使用兼点検簿」を備付、記載し週1回の日常点検は職員2人1組で行い、運行前・後の点検を15項目につき実施している。道交法施行規則に則り、安全運転管理者正・副各1名を選任し毎年、安全運転管理者講習を受講。車両管理と事故防止の取り組みを強化している。

【注釈】規程とは、複数の規定をまとめたものを意味する。



少子高齢化の進む中での 移送支援の在り方について

中森 高茂 議員



Q 喬木村総合文化祭など村の大きなイベントでの新たな移送支援は。

A 総合文化祭での会場間巡回車両の運行は浸透が進み、利用者が増加し有効な手段である。交通手段が無く参加出来ない事は解消したい。移送支援のタクシー券や、たかぎレンジャー制度を利用して頂くとともに、各自治会の要望によってはマイクロバスでの送迎も検討したい。

■ 新たな移動手段の取り組みは。



台風19号の被害と今後の 防災対応について

小池 豊 議員



Q 浸水想定区域が天竜川沿岸には、3か所ある。いざという時の対応は。

A 今住んでいる場所について、浸水等の危険はどうか知ってもらうことが重要と考える。昨年度と今年度の2年にわたり行った地区別防災研修の取り組みには、避難情報の段階と防災マップの見方について説明した。「自分の命、家族は自分が守る」という意識が一番重要と考える。

■ 太陽光発電設置の推奨と補助対応は。

「材料支給」の、高齢化による今後の課題



後藤 章人 議員



Q 特に高齢化率の高い地区に
対し、「特例」的な措置はで
きないものか。

A 仮に自分たちでできなく
て、原材料支給を受けて、
業者に施工を任せると、支払い
負担が生じる。このことが課題
となる。人口構造の問題なども
考慮し、良い制度の検討が必要
と思うが、八条は利便性の高い
制度とっている。

第5次総合計画、前半の総括
に基づく今後の方針について



佐藤 文彦 議員



Q 社会情勢、財政状況を鑑み、
前期計画の後半に向けた村
としての方針は？ 来年度の予
算編成の重点項目は？

A 選ばれる村であつて欲しいと
いう想いで仕事してきた。こ
れまでの積み残しや諸課題を整
理し、持続可能な社会構築に向
け後期計画を練る。来年度重点
項目は、堰下GW周辺道路整
備、伊久間工業団地の整備、統
合保育園の建設準備。非常に大
きな予算が必要。厳しい財政状
況だがしっかり考える。
■伊久間樋門への排水ポンプ設
置 ■下水処理施設の浸水対策 ■
災害時応援協定の見直し ■災害
廃棄物への対応 ■災害ボラン
ティア受入れ体制

お知らせ

○一般質問の答弁は
一つのみ掲載して
おります。二つ目
以降でお聞きにな
りたい方は各議員
のQRコードから
お問い合せでき
ます。

○一般質問に対する
ご意見感想など
に対し、当日一般
質問終了後に、各
議員が対応いたし
ます。ご遠慮なく
お声かけください。

議会に対する
意見要望は
こちらへ



昼神二三男議員



福澤眞理子議員

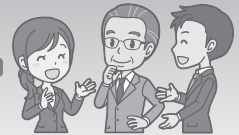


下岡 幸文議員



木下 温司議員

議会モニター



本会議一般質問を傍聴して

感じたこと

匿名

村の未来を切り開くため、「村政運営は如何なのか」「政策、
対策は如何なのか」と住民目線に立った様々なテーマで、行
政側と議会側が知恵を出し合い議論することを楽しみに傍聴
しました。

議員からの質問は、論点を明確に、印象ではなく自らの災
害ボランティアの体験や経験から調査した結果に基づき、下
調べをしっかりとって、持ち時間の40分を有効活用できるよう
工夫していると感じました。また、当局の答弁に対する再質
問も方向性を明確にして筋を逸れないよう、首長に政治姿勢
を問う場面もあり、今後の村政運営の方針や考えを知ること
ができたことは期待以上でありました。

しかし、残念と感じる質問もありました。最初から最後まで
で事務方のトップである課長が答弁に立つ姿です。一般質問の内容にもより
ますが、これは議会として如何なものなのでしょうか。どうしてもそのよう
な質問がしたいのであれば、別の機会で行えるのではないのでしょうか。
本会議一般質問の場合は、村民の生活に直結した問題が議論される場では
ないのでしょうか。

私なりの解釈ですが、本会議一般質問は、議員としての公約を村政に反映
させる重要なチャンスであり、公約に掲げた事項を行政側に政策提言できる
唯一の機会ではないでしょうか。

本会議一般質問の場が、議員にとって政策論議を行える大きなチャンスの
場と捉えるのであれば、私たち村民は、行政の重点政策に対して、「その事業
の変更を迫るような」政策論議を期待しています。



～「夢」を追って、さらに前進。～

木下 温司

小学校から高校まで放送部、放送局の仕事に憧れ夢を追い続ける中、昭和 50 年代、高度経済成長の波に乗って、県内の民放局 SBC 1 局から、長野放送、テレビ信州、長野朝日放送が次々と開局。開局に伴い、広告代理店が県内にも設立されるようになりました。勤務時代は SBC ラジオの企画、制作、テレビ CM、信毎の広告制作、企業の CI、イベント企画など、電波、活字媒体の全てを手掛け、県内外の媒体とも関わってきました。最後は、飯田 FM 放送の開局に携わり、その後、村のクリンネットでの勤務と、夢の実現に繋がりました。広告代理店の仕事は企画提案をし、無から有へ繋げる仕事です。常にアンテナを高くし情報の収集と、全方向での提案が必要。その経験を生かし、議会でも、議会報告の一つであるシンポジウム、パネルディスカッションなど、住民との対話を生かせる、広報広聴の新しい取り組みに、力を注いでいきたいと思っています。



～走・攻・守(想・好・酒)～

中森 高茂

昔、私の特技は何かと質問され家族に問いかけると、即座に「無芸大食」と答えが返りました。若い頃は人一倍食べるのに太らない体質でしたが、たばこをやめた 33 歳頃は 12kg 太りました。

野球が好きで早起き野球（喬木・飯田）・ヤングソフト・夜間ソフトは殆ど休む事なく参加して来ました。以前は走攻守とある程度自信がありましたが、今では走れない、打てない、守れない、の三拍子が揃い、監督業が主になり慰労会での活躍のみとなりました。小学生の頃多動児で、(今でも時々傾向が見られますが)廊下にバケツを持って立たされた事で足腰が鍛えられ、先生の投げるチョークをよける事で動体視力が養われたと分析しています。食べ物は好き嫌いが無く、春菊が大好きな事は鍋を共にした多くの皆さんに浸透しています。

皆様の健康寿命をさらに伸ばせるように、笑顔をモットーに取り組んで参ります。



～地域に根ざして～

小池 豊

富田で生まれ 70 年が経過、古希を迎えました。議員では二期目になります。

地元では、祭り囃子保存会員として 20 歳頃より頑張っています。将来にお囃子を繋げるため、子供囃子の練習に月 2 回参加しています。

第二小学校では、田植えから脱穀、モミスリまで、お米作りのお手伝いをしています。保育園でも子供達と接する機会があり、子供達の素直な眼差しと気さくなやり取りに、心和まされています。地区でのカラオケクラブには必ず出席楽しんでます。お酒を飲みながら、話が弾み 1～2 曲歌うと時間です。家では、水田 40a と、畑ではスモモと枝豆の栽培、自家用野菜 20 種類くらいを作っています。農作物は手をかければ、それだけの見返りがあり生甲斐です。地域、村のため、少しでも役に立てればと思いつつ、日を送っています。



～生きるということ～

福澤真理子

父は誰かの助けがなければ寝たきりです。食事は、胃ろうによる栄養です。私たち姉妹は、

胃ろうを造ることに迷うことはありませんでした。父に生きてほしかったからです。車椅子で、名古屋の孫娘の結婚式に出席しました。長く総代を務めた地元のお祭りに参加もしました。会話はできなくても、なじみの声には反応して、涙を流したり、冗談や失敗話には、ふっと笑うような表情をします。孫やひ孫も、寝ているおじいちゃんの周りでおしゃべりしています。父は祖母が亡くなってから『親というものは、どんな状態でいても、生きていてほしいものだ』と話していました。父はどう生きたかったのだろうか。生きてほしいという私たちの想いを、父がどう思っているかは、分かりません。私たちは父と一緒に今を生きています。どう生きて、どう最期を迎えるか。私はどうするだろう。

喬木村消防団女性班で一緒に活動しませんか？

喬木村消防団 女性班 班長 佐々木 宏美



女性班旅行（鎌倉）

活動①救護訓練

女性班では、災害時緊急時に備えて日頃から救護訓練に励んでいます。防災訓練等で各地区に出向いて救護訓練の指導をさせていたたくともあります。AEDの使い方、負傷者の手当て等、いざという時に役立つ知識や技術が身に着くのも消防団活動のよいところです。

活動②消防団のPR

消防団の活動を多くの方に知っていただき、団員確保につなげるため、最近では広報活動にも力を入れていきます。昨年はポスターを作成しましたが、今年にはPR動画の作成に取り組んでいます。また、日ごろの訓練活動を知っていただく場としてインスタグラム等SNSでの発信も始めました。

女性班は現在11名で、消防知識の習得を目的とした各種訓練への参加、救護訓練、消防団広報の3つを中心に活動していきます。消防団というと訓練や火事場への出勤など、男性が活躍しているイメージをお持ちの方も多いかと思いますので、実際に女性班がどんなことをしているのか、少しだけ紹介させていただきます。



このような活動を行っている女性班ですが、まだまだ活動の認知度は低く、残念ながら団員の新規

加入に繋がっていないのが現状です。ぜひ、女性班の活動を知っていただき、関心を持っていただけると嬉しいです。随時、一緒に活動していただける団員も募集しています。最後になりますが、冬は空気が乾燥し、火災の発生しやすい季節になります。特に石油ストーブなど引火しやすい暖房器具の使用や焚き火等には十分注意が必要です。火元から離れないようにしていただき、引き続き火災予防へのご協力をよろしくお願いします。



防災訓練（救護）

議会日誌

令和元年

- 10月 4日 全員協議会
- 7日～11月12日 地区懇談会（8地区）
- 30日 三遠南信サミット in 南信州
- 31日 飯伊市町村議会議員研修会
- 11月 6日～7日 省庁提言活動
- 12月 12日 全員協議会
- 23日 東海地区ふるさと会
- 12月 2日～18日 第4回定例会
- 今後の予定
- 令和2年
- 1月 9日 全員協議会
- 12日 消防団出初式
- 23日 飯伊市町村議会議員研修会
- 29日 町村議会運営研修会
- 2月 4日～5日 委員会視察
- 6日 飯島町議会との交流研修会
- 10日 全員協議会
- 3月 3日（火）第一回定例会（開会）9時（案）
- 10日（火）予算決算委員会19時（案）
- 11日（水）予算決算委員会9時（案）
- 13日（金）総務産業建設常任委員会16時30分（案）
- 13日（金）社会文教常任委員会19時（案）
- 15日（日）定例会一般質問9時（案）
- 17日（火）予算決算委員会予備日13時（案）
- 18日（水）第一回定例会閉会13時（案）
- 18日（水）議員全員協議会（案）

表紙写真の説明

今年の無病息災を願い、各地で恒例の「ほんやり」が行われました。

あとがき

新年おめでとうござい
ます。

昨年は台風19号により長野県は甚大な被害を受けた。被災されました皆様にお見舞いを申し上げます。村からも災害義援金として100万円寄付される。一日も早く復旧されることを願います。

この災害を受け、12月6日の県本会議において「気候非常事態に関する決議」を受け、阿部知事が「気候非常事態」を宣言し、この中で「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」とすることを決めた。

地球温暖化が進む中、この取り組みによる経済活動、生活環境への影響に、議会としても注視していかなければならないだろう。

（東原靖雄）

編集委員会

- 委員長 福澤眞理子
- 副委員長 東原 靖雄
- 委員 中森 高茂
- 委員 下平 貢
- 委員 佐藤 文彦